

きょうと福祉倶楽部だより

2022年 3号

戦争と福祉

きょうと福祉倶楽部はウクライナへのロシアの侵略に反対します

ウクライナにロシアが侵略を始めました。
その報道にふれるたびに心が痛んで仕方がありません。いまこの瞬間にもウクライナ、ロシアの兵だけではなく、なんの罪もないウクライナの人たちの生命が失われています。

一日でも早く、一秒でも早く、ロシアが侵略行為をやめて平和な時間が戻る事を強く願います。

戦争と言えば、わが国もかつて起こした侵略戦争で多くの犠牲者を生みました。

いまわたしたちの支援を必要とされている高齢者の方もその戦争で様々な苦勞を体験なさったことでしょう。

戦後の復興期、街中には傷痍軍人が路上で「物乞い」をしていました。脚を失い、手を失い、戦火を越えて生き残った兵士。

国の支援も無く、生きるためにご苦勞なさっていた光景が都市の至る所にありました。

ヒロシマ、ナガサキの被爆者は生きながらえても、ずっと放射能の恐怖におびえながら、差別に直面しながら、戦後を生きました。

もちろん大阪空襲や東京大空襲などの被害者も家族や地域を壊されました。障がいを負った人もいます。

戦争は新しい差別も生み出しました

日本兵として闘った朝鮮の人たちは終戦で日本国籍を無くし、

軍人恩給も受ける事ができなかったのですから戦争の恐怖の次は貧困恐怖のなか生きざるを得なかったのです。

日本人であっても戦争の被害者の兵士、市民は障がい者差別的餌食です。

戦争は尊いいのちを奪うだけではありません。

障がい者を作ります。

貧困を生み出します。

地球を壊します。

家族を壊します。

差別を生み出します。

それはひとり一人の尊厳を守り幸福を追求する「福祉の思想」の対極にあるものです。

きょうと福祉倶楽部は「本当の福祉を作りたい」と仲間が集った事業所です。

だからこの戦争にも「反対」の声をあげていきます。



戦争で脚を失い、物乞いをする傷痍軍人の方。
NPO 法人地域資料デジタル化研究会の承諾を得て拝借致しました。